

# 新春対談2024

## 『論語と算盤』×『野球』 渋沢栄一翁を語る

〈深谷市長〉

〈2023WBC日本代表監督〉

# 小島進 × 栗山英樹



渋沢栄一翁の著書『論語と算盤』の考えを選手の育成やチーム作りで生かしてきた栗山英樹さんを対談相手に迎え、時代を超え現代にも通じる栄一翁の『論語と算盤』について語り合いました。

対談は、栄一翁の原点ともいえる生誕地・旧渋沢邸『中の家』で行われました。

### 『論語と算盤』との出会いと選手たちに渡す理由

**小島市長** 今日は、遠いところ深谷まで来ていただきありがとうございます。実際に、栄一翁の生誕地である旧渋沢邸『中の家』に来てみていかがですか。

**栗山さん** 私にとって、渋沢栄一さん（以下渋沢さん）は、先生という失礼ですが、監督として進む方向性みたいなのを示してくださったんです。

私としては、昔のかたというよりも、自分の心の中では生きていて、常に困った時は頼っていたの

で、渋沢さんの生誕地を一度訪れたいと思っていました。今日は来ることができてよかったです。

**小島市長** そうだったんですね。ありがとうございます。栗山さんといえば、北海道日本ハムファイターズ（以下ファイターズ）の監督時代に、『論語と算盤』の本を選手たちに渡していたという話を伺い、大変興味を持ちました。

なぜ、『論語と算盤』だったのでしょうか。

**栗山さん** 自分の勉強する方向性がほやっとしたときに、新聞で経営者の皆さんの『座右の書』が特集されていて、その中で多いのが『論語と算盤』でした。それで、な

で、『論語と算盤』を選手に渡すようになりました。

### 栄一翁から学んだ想いを選手に伝えて挑んだWBC

**小島市長** なほほ、そうでしたか。

**栗山さん** 令和5年3月に行われたWBC（ワールドベースボールクラシック）では、栗山さんは日本代表を監督として率いて、世界一になったわけですが、選手たちに、『論語と算盤』の想いや精神はどのように伝えましたか。

**栗山さん** 渋沢さんが言っている『社会で自分が得た富』というのは、社会の形がないと得られない。一人では何もできない。人が生きる

というのは、まわりの人のおかげであって人が生きていくという想いを伝えましたね。

（ごまて理解してくれたのかわからないですが、『他人事にするな、侍シャパンの一員だと思わないてくれ、自分のチームだ、俺のチームだとそれぞれが思ってた』と伝えたいです。そうすればチームが前に進むと思つたので。

私自身の考えというより、渋沢さんのような先人の素晴らしい知恵の中から、私が学んで大事だと思ったことを選手たちに伝えていた。そういう面ではすごく渋沢さんに助けていただきました。

### 一人ひとりが『個』ではなく『日本の勝利』を想い全力を尽くした戦い

**小島市長** WBCを見ていて、栗山ジャパンは年齢に関係なく、すごく良い雰囲気というか、目標に向かって一つになっている印象を受けました。監督としてそういう雰囲気を作り上げていったのでしょうか。トップレベルの選手たちをまとめ上げる監督としての苦労とかはありましたか。

**栗山さん** 私は何もしていないん

ですよ。選手たち自身が、勝つために必要なことをしっかりやって、そういった雰囲気を作り上げていった感じですね。

**小島市長** そうなんですか。栗山さん チーム内で一番年上のダルビッシュ選手を中心に、翔平（大谷選手）とかアメリカで活躍している選手たちが、若い選手たちが思いっきりできる環境、一人ひとりがやりやすい環境をつくってくれたのが、すごく大きかったと思っています。

選手たちが、自分が出られないとか、個人というのをすべて捨ててくれて、日本のために、そして次の世代の子どもたちのために、全力を尽くしてくれました。

選手たちのその姿を監督として横で見えてきて、みんながあんなに必死になって自分のことを捨てて、チームのために一生懸命やってくれるとこんなに感動するんだなと感じた大会でもあったので、私も選手に感謝しかありません。

**小島市長** そうですか。あの戦いは、私もすごく感動しました。なんというか、栄一翁も、いろいろな苦労やたくさんの困難を乗り越えてきましたが、客観的にみ

せ皆さんが『論語と算盤』と云うのかなと思つたときに、ちょうど新書版が出て、改めてそれを読んでみたんです。その時に、野球って、『論語と算盤』が一番近いなと思つたんです。

**小島市長** そうなんですか。

**栗山さん** チームが最下位になつても、自分が活躍していたら、自分だけ給料が上がってしまうというように、『みんなのために』というのと、『個人』というのが相反する動きをしてしまつて。そういう組織として難しい点や、そういう人たちにどう生きてもらうかを考えた時に、渋沢さんが『論語と算盤』の中で言っていることに答えがありました。それ



栗山英樹 (2023WBC日本代表監督)

1961年生まれ（62歳）、東京都出身  
2012年～2021年に北海道日本ハムファイターズの監督を務め、チームを2回のリーグ優勝、2016年には日本一に導く。2023年WBCでは、野球日本代表の監督として優勝を経験。

れば、高崎城乗っ取りを計画したりとか、幕末の混乱時にパリにいなければいけなくなっていたかもしれないなどと思うと、やっぱり運が良いんですね。失礼な話、あの試合を観ていると、栗山さんもやっぱり、そういったものを引き寄せる何かがあるのかなと思うのですが、どうですかね。

**栗山さん** まあ、そうですね。そういう意味では私も運が良いのかもかもしれませんね。翔平（大谷選手）もどうだと思えますよ。私は翔平（大谷選手）とかは神様から遣わされたっていう感じがすごくあるんです。野球をする子が減り、子どもの夢も少なくなってきたこの時代に、そういう意味では、本



最初に形をつくったかたを、みんな目標にして、一人出るとそれを越えていく。今は、野球に限らず世界基準というものがスポーツのベースとなっていて、それは、そういった選手たちのおかげだと思っているので、本当に楽しんでいます。

12年間の監督生活から学んだ『すべては人』

**小島市長** 栗山さんは、さまざまなところで講演をされていると思いますが、講演で自身が伝えたいと思うことはありますか。  
**栗山さん** 私のほつから、歴代に伝えたほうがいいと伝えたい

当に神様が遣わしたなと思う瞬間がいっぱいありましたけれど、渋沢さんも間違いなく神様が遣わしている感じがしますよね。

**小島市長** そんな気がしますよね。生かされているというのか。  
**栗山さん** 運が良いというより、必ず生きるようになっていくというのか。

物事を決める監督という仕事は、いつもそれを感じていましたね。試合でどんなことをしても、勝たせてもらえない。要するにおまえた方の生き様自体が間違っているから勝てないと言われているような、神様から否定されている感じってどうですかね。

今回のWBCは、おまえた方はちゃんと準備したから、勝たせてやろうみたいな空気を感じたので、それを含めて意味があるのかなと私は思っています。

**小島市長** そうですが、私も市長をしていると、判断に迷う時が実は結構あります。私の場合は、神様というか、栄一翁だったらどう選択するのかと、自分の心の中の栄一翁に相談しています。なんか、こう直感的なものがあるのかなと思いますよね。

とはしないですね。

でも、私の実体験として、監督時代に苦しい時、自分が大事ななと思ったことは聞かれれば伝えますね。やっぱり、選手たちの育つ過程を見てみると、最後は「人なんだ」ということは間違いないと思います。

渋沢さんも言われていますが、人としてきちんとしていれば、物事は進むのだと思います。人としての信用がすべてなんです。人としての生き様をきちんとしていけば、すべてが前に進み始めるのかなというのが、私の監督生活の実感なので、それだけは、聞かれた時にはお伝えしています。

**小島市長** そうですよ。栄一翁の中心にも「人づくり」があった



▲旧渋沢邸『中の家』敷地内にある『渋沢平九郎追懐碑』を見学

憧れや目標として次世代の『人づくり』につながる人としての生き様

**小島市長** 私はいろいろなスポーツを見るのですが、最近では、若い選手たちがこれまではまた違った世界の基準で活躍していると感じていて、今の若い人たちはすごいなと思っています。栗山さんから見ると、大谷選手とか若い人の活躍をどう感じていますか。

**栗山さん** 市長の感覚は、すごく理解できます。ただ、私が感じているのは、例えば、『みんなのために、違うものは違う』と思って、ひたすら走り続けた『渋沢さんがそうだったように、翔平（大谷選手）も、とにかく自分の好きな野球に対して、先人観にとらわれず、『スポーツは楽しいもの』『結果を出して勝たないと面白くない』というのをひたすら追いかけていて、人が持つ純粋さを思いっきり表現しているんですね。

渋沢さんもそうですが、私はそういう人たちって、多分みんな一緒なのかなと捉えているんです。だからこそ、私が渋沢さんを追いかけているように、みんなが憧れ

ように、やはり人が大事なんですね。

栄一翁の考え方や精神を多くの人に伝えるには

**小島市長** 栄一翁が、新1万円札の肖像になることで全国的に注目されますが、私は日本中に栄一翁を知ってもらうだけじゃなくて、『論語と算盤』や『忍の心』といった栄一翁の考え方や精神を広めたいと思っています。どうしたらいいですかね。

**栗山さん** そういう意味では、私でいうと、選手たちに『論語と算盤』を渡していますが、相手にちゃんと読んで聞かなくてはいけません。それをすると、強制になってしまうので、環境は作り出すけどやっぱり自分自身で本を手に取りなれないといけないと思っています。ですから、啓蒙というのはとても大変なんです。ただ、私は渋沢さんの考えとか、素晴らしい本をきちんと伝えていく作業はしていると思っています。

**小島市長** 今の日本って、物質的にも、すごく豊かじゃありませんか。そういう中で、やっぱり最終的に



▲旧渋沢邸『中の家』にある『渋沢栄一アソドロイド・シアター』を鑑賞

るのだと思います。

ファイターズの監督時代、きっと選手たちは、なぜ監督は、『論語と算盤』を渡すのかなと思っていただろうと思います。でも、今回、渋沢さんが新1万円札に決定したので、選手たちに少しでもわかってもらえていればと思いますね。

**小島市長** そうですよ。栗山さんが栄一翁を想うように、今の子どもたちは、大谷選手の活躍を目にするので、憧れたり目標にしたりするでしょうから、今後の世代にもすごく期待できると思うのですが、どう思いますか。

**栗山さん** それは、もちろん間違いないと思います。

大切になるのは、心の豊かさというのか、そういうものになってくると思うんです。

私は、栄一翁の精神が一人ひとりにしっかりとあれば、生きるモチベーションにつながると思うんですよ。今回のWBCみたいに、チームのために頑張っている姿とかを見るとやっぱり、自分たちのモチベーションにもなっていると、思っているので、ぜひ、そんなところを今後、見せていってもらえればと思うのですが。

**栗山さん** そうですよ。多分、私の勝手な感覚ですが、渋沢さんが言われている日本主義の基になっているのは、『公』で、公の心というのが大切なんだと思うんです。これから豊かになるっていうのは、そこじゃないかなって。それは、スポーツとは関係ないと思うかと思いますが、私は元々はそれがベースだと思っているので、そこはしっかりと伝えられればと思っています。

**小島市長** そうですか。これから活躍を期待しています。本日はどうもありがとうございました。  
**栗山さん** ありがとうございます。